

氏 名	北 野 信 彦
学位(専攻分野)	博 士 (学 術)
学 位 記 番 号	博 乙 第 93 号
学位授与の日付	平成 13 年 3 月 26 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学 位 論 文 題 目	近世出土漆器における材質・技法の把握に関する文化財科学的研究
審 査 委 員	(主査) 教 授 前川善一郎 教 授 梶原莞爾 教 授 上田充夫

論 文 内 容 の 要 旨

本研究においては、近世紀（17世紀初頭～19世紀中期）の出土漆器における材質・技法を文化財科学の立場から調査及び研究したもので、8章及び序論と結論から構成されている。

第1章においては、当該分野のこれまでの研究概要と問題点を浮き彫りにしたのち、本研究の目的と方法について述べている。

第2章においては、近世漆器に使用される漆器の製法とその材質に関する調査を、18世紀後半から19世紀後半に至る5件の文献史料の内容を詳細に検討することで行い、機器分析による近世漆器の調査を行う上での重要な指針を得ている。

第3章においては、大量に出土された江戸時代後期の東京都春日町遺跡の資料を詳細に分析して、漆の精製技術及び漆継ぎ修理に関する基礎的な調査結果をまとめている。

第4章においては、全国135ヶ所の遺跡から出土した約16,600点の出土漆器の分析調査を行い、使用された用材の樹種と木取り方法を解明している。トチノキ、ブナ、ケヤキが全体の90%以上を占めており、樹種と木取り方法の関連をも見いだしている。

第5章においては、第4章で取り扱った資料の中から約4000点の蒔絵漆器を取り上げ、用材、漆塗り技法、使用顔料、蒔絵材料の項目について詳細に分析調査し、17世紀前半から19世紀中頃までの蒔絵漆器の特徴が4つに区分されることを見いだしている。

第6章においては、出土漆器の赤色系漆に主として使用されている廉価な顔料ローハベンガラの製法に関する調査をまとめている。最初に、文献史料を調査し、その結果にもとづきローハベンガラの製法に関する復元的実験を行っている。そして、X線解析やSEM観察より当時の作法を明確にし、優れた手法であることを実証している。

第7章においては、出土漆器の赤色系漆の顔料としてローハベンガラが用いられた以前の使用顔料であった鉄丹ベンガラの製法に関する調査をまとめている。最初に、文献史料を調査し、その結果に基づき鉄丹ベンガラの製法に関する復元的実験を行い、当時の製作法を明確にしている。

第8章においては、出土漆器の赤色系漆としてローハベンガラに次いで用いられた水銀朱の製法に関する調査をまとめている。最初に文献史料を調査し、その結果にもとづき水銀朱の製法に関する復元的実験を行っている。そして、化学分析より当時の製作法と顔料の特徴を明確にしている。

第9章においては、黄色系および緑色系漆の使用顔料である石黄の製法に関する調査結果をまとめている。最初に、文献史料から江戸時代の石黄を調査し、石黄の調達および使用方法を明確にした。つぎに出土漆器に使用された石黄の化学分析を行い、江戸時代の石黄が2種類に分けられることを見いだした。

第10章においては、これまでに得られた各章の結論をまとめている。

論文審査の結果の要旨

本研究は、近世初頭～江戸時代にかけての出土漆器に対し、文化財科学の立場から調査・研究をしたものである。出土漆器は、木地・下地・漆塗膜面という異なる素材からなる脆弱な複合遺物であるため、個々の残存状況は土中の埋没環境によって大きく異なる。そのため、本論文では、全国135遺跡、総点数16,578点の近世出土漆器資料を用いて（1）樹種同定、（2）木取り方法、（3）漆塗り技法、（4）色漆の使用顔料や蒔絵材料、の項目に分けた機器分析調査を網羅的に実施している。さらに、文献史料や口承資料を用いて江戸時代の漆器生産技術の復元調査を並行して行い、機器分析による出土漆器資料の材質・製法の分析結果からデータベースを作成している。その結果、近世出土漆器には、材質・制作技法の観点から、大きく4つの時期区分が存在することを見出した。さらに、当時の漆器に用いられていたベンガラ、水銀朱、石黄の顔料成分を分析調査している。これらのデータは、個々の文化財を正當に保存処理し、かつ保管環境条件を正しく設定するための基礎資料としてきわめて貴重であると高く評価されている。そして、本論文は学術的にも価値が高くすぐれた独創性のあることを審査員一同認めた。本論文の基礎となったレフリー制のある学会に掲載された11編の論文（うち2編は投稿中）を以下に示す。すべての論文において、申請者が筆頭著者である。

- (1) 北野信彦；文献史料から見た近世漆器に使用された漆の製法とその材料に関する基礎的調査、古文化財之科学、38, pp65～79 (1993)
- (2) 北野信彦；近世出土漆器資料の保存処理に関する問題点—文献資料から見た赤色系漆に私用する弁ガラの製法について、古文化財之科学、39, pp93～102 (1994)
- (3) 北野信彦、肥塚隆保；近世におけるベンガラの製法に関する復元的実験、文化財修復学会誌、40, pp35～47 (1996)
- (4) 北野信彦；近世出土漆器資料の保存処理に関する問題点—文献史料から見た赤色系漆に使用する朱の製法について、文化財保存修復学会誌、41, pp88～100 (1997)
- (5) 北野信彦、肥塚隆保；江戸時代における鉄丹ベンガラの製法に関する復元的実験、文化財保存修復学会誌、42, pp26～34 (1998)
- (6) 北野信彦・降幡順子・原祐一・成瀬晃司・堀内秀樹・肥塚隆保；出土史料から江戸時代における鉄丹ベンガラの製法について、文化財保存修復学会誌、43, pp106～119 (1999)
- (7) 北野信彦；近世出土漆器碗の用材に関する一考察、日本文化財科学会誌、38, pp47～66 (2000)
- (8) 北野信彦、肥塚隆保；近世出土蒔絵漆器の材質・技法に関する基礎的調査、日本文化財科学会誌、38, p67～92 (2000)
- (9) 北野信彦、肥塚隆保；近世出土漆器に使用される石黄に関する基礎的調査（1）、文化財保存修復学会誌、44, pp70～79 (2000)
- (10) 北野信彦、肥塚隆保；近世出土漆器に使用される石黄に関する基礎的調査（2）、文化財保存修復学会誌、（投稿中）
- (11) N. Kitano, H. Sugai, A. Tanigawa, T. Koezuka, M. Sato; Verification of Urushi-bonding Procedure for Ceramic Repairing in Edo Period on the Analysis of Excavated Materials, Archaeology and Natural Science (投稿中)